

## 経済学部

経済学部では、二〇〇一年一月に「卒業生より見た滋賀大学経済学部の教育内容・方法に関するアンケート」と題する調査を行った。この中で滋賀大学および経済学部はどのような方向に行くべきかを尋ねた所、様々な意見が寄せられた。

アンケートによると、大学生の学力低下が叫ばれる中で、経済学部の卒業生の間にも、かつての滋賀大学の学力水準と比較して現状のそれが低下したという認識があるようだ。これに対しては、学部規模の拡大について「量より質を重視すべきである」とか、「単位取得や卒業を難しくすること」、「入試科目に必ず数学を加えること」などを求める意見がみられた。また、質の低下に関連して、教官の質の低下や教育方法の改善を求める声もある。

滋賀大学の将来については、変革期を乗り切る為に、特色を明確にせよという意見が強くあった。しかしながら、その方向性は一概ではなかった。彦根高商以来の伝統を踏まえてか、「社会に出て、即戦力となる講義をしてほしい」という実践性を求める声がある一方、「すぐに役に立つ」、「すぐにダメになる」をおそれている」という意見や、「社会状況に左右されない厳

格な教育の維持」を求める意見があった。専門性が教養性かという点についても意見が分かれる。「経済のプロを目指す高い専門家を実践してほしい」、「専門学校のような資格を身につけられるような授業があれば良いと思う」といった専門性の追求に重きを置くものに対し、「企業戦士の大量生産は終わった」、「スペシャリストになるのは就職後でよい」、「専門分野の学習も必要ですが、社会で必要な常識と教養を身につけてほしい」といった人格形成をふくめ幅広い教養を身につけることを重視する意見もある。

以上の議論は多かれ少なかれ、他の大学にも当てはまるが、滋賀大学に固有の論点としては、まず教育学部と経済学部が離れていることに関係したものが多くあった。「経済、教育との完全な統合と総合大学化」を求める意見がいくつか寄せられた。工学部や法学部をつくることを提案するものもあった。

しかしその一方で、「彦根高商時の精神に戻り」、「特色ある単科大学にすべき」との意見もあった。経済学部にあつてはこの「彦根高商」というのがキーワードになっているが、中には「過去の高商時代のしがらみにとらわれないこと。大胆な発想ができない大学は必ず将来消えてなくなると思う」という厳しい意見もあった。

経済学部ファカルティ・デイベロップメント委員会  
前委員長 鈴木正仁  
広報委員会委員 中野 桂

卒業生たちの滋賀大の将来についての意見は必ずしも一つではないが、アンケートに現われた意見はどれも真剣に母校の将来を考えたものであった。詳しくは経済学部ファカルティ・デベロップメント委員会発行の調査結果報告書を参照されたい。

### 卒業生より見た滋賀大学経済学部の教育内容・方法に関するアンケート結果（抜粋）

「就職後に大学での授業が人格形成や教養として役に立ったことがありましたか、また専門知識や技術として役に立ったことがありましたか」という質問に対して、「あった」とする回答が「少しあった」とするものも含めて、それぞれ69.9%と64.9%あった。専門知識や技術より、人格形成・教養に役だったとする回答が5%ほど高かった。

	人格形成 / 教養 (%)	専門知識 / 技術 (%)
よくあった	16.1	16.0
少しあった	53.8	48.9
ほとんどなかった	28.0	30.9
全然なかった	2.2	4.3

「今後の大学の授業では、人格形成・教養重視の科目と専門・技術重視の科目のどちらに重点を置くべきだとお考えですか」という質問では、「ともに重視すべき」が一番多く、次いで「どちらかといえば専門・技術重視の科目のほうだ」、「どちらかといえば人格形成・教養重視の科目のほうだ」と続く。

	(%)
どちらかといえば人格形成・教養重視の科目のほうだ	23.0
どちらかといえば専門・技術重視の科目のほうだ	36.8
どちらも重視すべき	39.1
どちらともいえない	0.0
その他	1.1